

作成して、全般的な考察を加え、さらに多くの俚言の中から、特に興味関心をひく若干の俚言について気象学的な解析を加えてきた。しかし、同一現象からまったく反対の現象を予想する俚言や動・植物により天気などを予想する俚言など、個々の俚言を入念に解析するには、その数はあまりにも多く、また多くの要素が入りまじっており、したがって、茨城県における気象俚言の研究はその出発点についての感じを深めるばかりであり、今後の研究にまつところが大きい。

広範囲にわたるこの種の研究が、多くの時間と労力を要することはいうまでもないことである。今回はその収集、分類に大部分の時間を労し、むしろ肝心な考察についてはわずかを労したのみであり、深く反省させられる。しかし、ここに多くの問題点を提起したことは疑いのないことであり、今後あらゆる機会をとらえて、個々の俚言の追跡調査をすすめていきたいと考えている。単に俚言の研究が歴史的な遺物のら列にとどまらず、局地気象の解析という点で大きな発展を願うものである。

最後に、この研究をすすめるにあたって、貴重なるご助言を賜った法政大学助教授吉野正敏博士、この研究を企画し、終始ご指導をいただいた茨城県高等学校教育研究会地学部玉村幹雄前部長、鷺和夫現部長、茨城県教育研修センター中村一夫、谷萩充両研究主事ならびに地学部幹事のかたがた、また資料の収集にご協力下された茨城県下33高等学校の地学担当の教官ならびに生徒諸君、

さらには資料の分類にご協力下された茨城県立水戸農業高等学校永井保郎氏ならびに地学クラブの生徒諸君に深い感謝の意を表する次第である。

参 考 文 献

- 1) 菊池繁雄、尾崎康一、山口享、宮園実康、1964：北九州における海難防止に関する天気俚言、*天気*, 11, 131~137ならびに11, 166~172.
- 2) 井坂末松、1965：霞が浦東岸地域における天気俚言、*天気*, 12, 55~60.
- 3) 栗原善作、1966：三浦地方における天気俚言、*天気*, 13, 143~150.
- 4) 森俊彦、1967：農家の気象への関心について。（その2 宮城県北部の気象俚言について）*天気*, 14, 164~170.
- 5) 堀川収、1965：茨城県西茨城郡地方における天気予知に関する俚言、農作豊凶に関する俚言、茨城県高等教育会「高等教育」特集12号.
- 6) 水戸地方気象台編、1959：茨城県の気候、気象協会関東中部支部.
- 7) 岡田武松、1935：気象学下巻、岩波書店
- 8) 紫雲荘編、1936：天災予知集、紫雲荘.
- 9) 全国学農連盟編、1948：全国天気予知、学習社.
- 10) 和達清夫監修、1954：気象の事典、東京堂.
- 11) 大後美保、1956：ことわざの真実、三省堂.
- 12) 網仲七之助、1963：房州地方の天気俚言、富崎測候所編集、防気資料 No. 2
- 13) 大後美保、1965：新説ことわざ辞典、東京堂.
- 14) 簀益夫、1965：信州の天気のことわざ、古今書院.

[新刊紹介]

福井英一郎：気候学論文集

B 5 版、482頁、(定価1,400円、送料別)

福井英一郎教授は周知のとおり、日本の気候学の指導者として、多くの門下生を育成されたばかりでなく自ら数多くの論文を執筆されてきた。

この論文集は、教授が本年3月、東京教育大学を停年退官された機会に、これらの論文の中からとくに重要と思われる37篇を自選され、1冊にまとめて出版されたものである。

この中には、気候学の研究論文として非常に重要な位

置を占めているにもかかわらず、今日では容易に原典にあたれないものも数多く含まれている。いわば、この一冊がそのまま日本における気候学発展の跡を示す道標とも考えられる。

本論文集は、元来、東京教育大学地理学教室が主催して行なわれた退官記念会の際、関係者に配布されたものであるが、教授の業績が、より多くの気象学関係者に再読され、学界の発展の一助になることが望まれる。

なお、本論文集は、日本気象協会の販売課（東京都千代田区神田錦町3-23）に申込むと販布される。

(河村 武)